

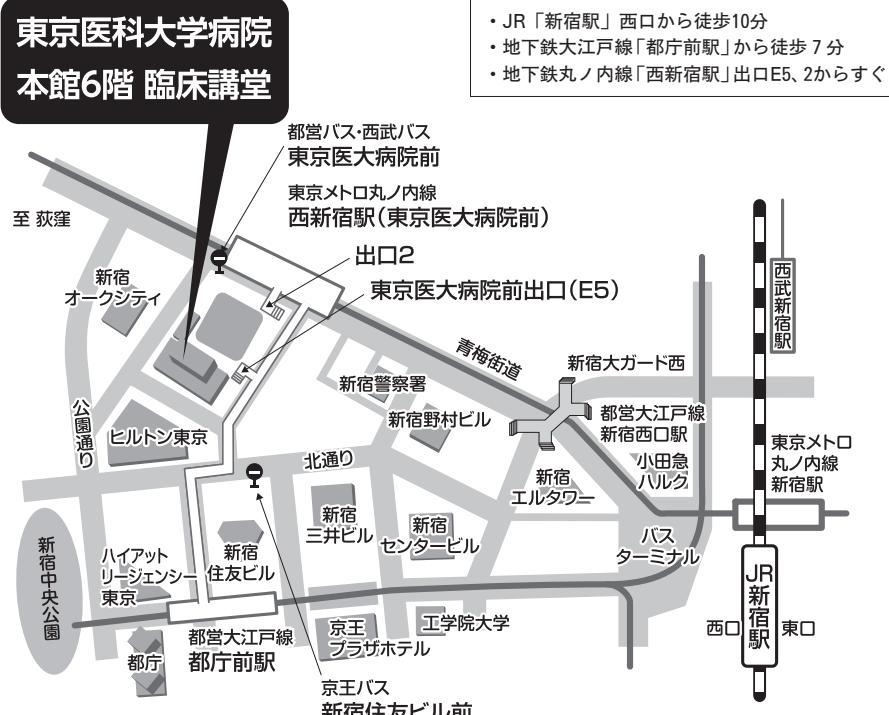
第 655 回

日本小児科学会東京都地方会講話会

プロ グ ラ ム

日 時 2019年 6月 8日(土) 午後 2時 00分

場 所 東京医科大学病院本館 6階臨床講堂



世話人

プログラム係 石毛 美夏
日本大学小児科 03(3293)1711

(FAX) 03(3292)2880

会場係 熊田 篤

東京医科大学小児科 03(3342)6111

(FAX) 03(3344)0643

事務局 03(5388)7007

e-mail: jpstokyo-office@umin.ac.jp

次回以降開催予定日

2019年7月13日(土) 東京医科大学新病院 9階講堂

2019年9月14日(土) 東京医科大学新病院 9階講堂

2019年10月12日(土) 飯田橋レインボービル 7階

2019年12月14日(土) 東京医科大学新病院 9階講堂

第655回 日本小児科学会東京都地方会講話会演題

(1題6分、指定発言5分、追加討論3分以内、厳守のこと。○印演者)

第1グループ 14:00—14:20

座長 大橋 祥子（都立大塚病院新生児科）

1) 虚血性腸炎とミルクアレルギーの鑑別が困難であった完全大血管転位症の1例

○永田 万純、鳥羽山寿子、磯 武史、松井こと子、原田 真菜、神保 圭佑、古川 岳史、福永 英生、工藤 孝広、高橋 健、稀代 雅彦、清水 俊明 （順天堂大学小児科）

TGA(I) の女児。日齢0よりミルクを開始。日齢8に血便、腸管壁内ガス像を認め虚血性腸炎(IC) が疑われた。根治術後ミルク再開時にも腸管拡張像を認めたが、加水分解乳へ変更したところ改善した。リンパ球刺激試験は2項目陽性でミルクアレルギー(MA) の関与も疑われた。ICとMAの鑑別は困難であり文献的考察を交えて報告する。

2) 胎児エコーで十二指腸閉鎖症が疑われた新生児肝囊胞の1例

○大原 智子¹⁾、岩田はる香¹⁾、四手井綱則¹⁾、勝崎 静香¹⁾、滝 敦子¹⁾、岡本健太郎²⁾、森尾 友宏¹⁾ （東京医科歯科大学小児科）¹⁾、（同 小児外科）²⁾

在胎36週2日1,682gで出生した男児。胎児エコーでdouble bubble signを認め、十二指腸閉鎖症が疑われた。出生後の腹部X線で十二指腸閉鎖は否定的で、腹部エコー、CTで肝門部に囊胞性病変を認めた。出生後経過では胆汁うっ滞を認めず、肝囊胞と診断した。新生児肝囊胞は稀な疾患であり、臨床経過について報告する。

第2グループ 14:20—14:55

座長 鈴木 潤一（公立阿伎留医療センター小児科）

3) テストステロン単回投与後に負荷試験を行うことにより成長ホルモン分泌能を正しく評価し得た思春期遅発症の13歳男子

○草川 萌、佐藤 武志、市橋 洋輔、石井 智弘、長谷川奉延、高橋 孝雄
(慶應義塾大学医学部小児科学教室)

11歳以上の思春期前男子では、成長ホルモン(GH) 負荷試験前にテストステロン(T)を単回投与し偽陽性を回避することが勧奨されているが、本邦では一般的とは言えない。成長率低下を認める思春期前13歳男子において、GH分泌能が通常の負荷試験では低下、T投与後の負荷試験では正常との結果を得た。結果、不要なGH治療を回避できた。

4) 低身長精査目的に来院し低フォスファターゼ症の診断に至った1例

○丸山 和隆、丘 逸宏、武田 翔、赤塚 祐介、関口 早紀、室田 直紀、西山 樹、佐藤 真教、吉田 登、辻脇 篤志、櫻谷 浩志、幾瀬 圭、新島 新一、大友 義之
(順天堂大学練馬病院小児科)

7歳女児。既往歴は川崎病以外に特記すべきことはない。低身長の精査目的に来院し、血液検査結果や病歴、家族歴などをきっかけに低フォスファターゼ症の診断に至った。なお歩容異常や筋力低下はなかったが、乳歯早期脱落と骨密度の低下が確認された。低身長は頻繁に遭遇する主訴であり、文献的考察を踏まえて報告する。

5) 乳児期に診断した先天性 Glycosyl-Phosphatidyl-Inositol (GPI) 欠損症の 1 例

○中馬 拓也¹⁾、小穴 信吾¹⁾、長谷川里奈¹⁾、羽生 直史¹⁾、木村 将裕¹⁾、石井 宏樹¹⁾、鈴木 俊輔¹⁾、村上 良子³⁾、木下タロウ³⁾、河島 尚志²⁾

(東京医科大学八王子医療センター小児科)¹⁾、(東京医科大学小児科)²⁾、
(大阪大学微生物研究所藪本難病解明寄附研究部門)³⁾

1歳男児。生後 2か月時に後弓反張、特異顔貌を主訴に紹介となった。難治性てんかん、精神発達遅滞、高 ALP 血症を認めた。フローサイトメトリーの結果 CD16 の発現低下を認め先天性 GPI 欠損症 (IGD) と診断。ターゲットシークエンス解析の結果 PIGA に変異を認めた。乳児期に診断した IGD の臨床経過について文献的考察を加え報告する。

指定発言 沼部 博直 (東京医科大学病院遺伝子診療センター)

休憩 14:55—15:05

感染症だより 15:05—15:25 (講演:15分+質疑応答:5分)

座長 斎藤 義弘 (東京慈恵会医科大学葛飾医療センター小児科)

多屋 馨子 (国立感染症研究所感染症疫学センター)

教育講演 (ii 専門医共通講習 医療安全) 15:25—16:25 (講演:50分+質疑応答:10分)

座長 河島 尚志 (東京医科大学小児科)

医療現場に安全文化を!

三木 保 (東京医科大学医療の質・安全管理学)

医療現場において患者安全は普遍的原則であり、「良質な医療と安全確保」が求められる。そして安全な医療の最終目標とすべきものは、患者への良質で安全な医療の提供にあたり、その重要性にふさわしい注意が必ず最優先で払われるために、組織と個人が統合された医療安全の認識、気質、態度を備えた「医療安全文化」である。技術、知識なき医療は無力であり、安全管理意識のない医療は暴力である。医療現場においては社会の負託に応えるべく、技術のみならず安全で良質な医療を提供が当たり前の「安全文化」の構築維持が必要である。

休憩 16:25—16:30

第3グループ 16:30—16:50

座長 大和田 啓峰 (東京大学小児科)

6) 面会に際しきょうだいへの心理的影響に関する議論を行った小児がん終末期の 1 女児例

○山瀬 聰一、谷ヶ崎 博、伊東 正剛、中原衣里菜、大熊 啓嗣、平井麻衣子、森岡 一朗
(日本大学板橋病院小児科)

急性白血病に対する移植後の重症合併症で亡くなった 6歳女児である。終末期に患児の外見が変わり果てていたことから、幼少姉妹による面会の可否が議論となつた。PTSD など心理的影響を含め、終末期の家族ケアのあり方を多職種で再検討する契機になつたので、その経過と課題を報告する。

7) 胸部 CT で肺結節影を認めた川崎病の 1 例

○中川 愛、大越 啓吾、権守千寿瑠、鳥山 泰嵩、樋渡えりか、山田 哲史、齋藤 亮太、
堀向 健太、富田 和江、齋藤 義弘 (東京慈恵会医科大学葛飾医療センター小児科)

遷延する発熱を主訴に来院した 7 か月男児。入院時軽微な眼球結膜充血、咽頭発赤、発疹を認めたが、発熱以外の症状は自然消失した。胸部 CT で肺結節影を認めていたが、心臓超音波検査で冠動脈拡張が明らかとなり、川崎病と診断した。γグロブリン療法後は解熱し、肺結節影も消失した。川崎病における肺病変について文献的考察を含めて報告する。

第 4 グループ 16:50—17:15

座長 荒木 孝太郎 (都立小児総合医療センター感染症科)

8) 脊骨骨髓炎を発症した新生児の 1 例

○佐古 育美¹⁾、飯島 弘之²⁾、森田 麻莉^{1),2)}、益田 博司²⁾、余谷 暉之²⁾、前川 貴伸²⁾、
稻葉 尚人³⁾、関 敦仁³⁾、松井 俊大⁴⁾、窪田 満²⁾、石黒 精¹⁾
(国立成育医療研究センター教育研修センター)¹⁾、
(同 総合診療部)²⁾、(同 整形外科)³⁾、(同 感染症科)⁴⁾

周産期歴に異常のない日齢 24 の女児。おむつ交換時の啼泣と左前脛骨部の腫脹で受診、造影 MRI 検査にて左脛骨骨髓炎、髓内および皮下膿瘍と診断した。膿瘍からメチシリソウ感受性黄色ブドウ球菌が分離され、抗菌薬治療に加え骨搔爬術を行った。生後 3 か月未満発症の骨髓炎は報告が少なく、5 年間に当院で経験した症例から臨床像の検討を行った。

指定発言 江口 佳孝 (国立成育医療研究センター整形外科)

9) 陽陰圧体外人工呼吸器 (RTX) が奏功した A 型インフルエンザウイルス感染による鋸型気管支炎の 1 例

○野崎翔太郎、及川 裕之、肥沼 悟郎、高橋 孝雄 (慶應義塾大学小児科)

9 歳女児。鋸型気管支炎では気管支に粘液栓が形成され、気管支閉塞による呼吸不全をきたす。治療の第一選択は気管支鏡による粘液栓の除去であるが、陽陰圧体外人工呼吸器 (RTX) のみで粘液栓の除去に成功した。肺葉の一部に含気が残存し中枢気管支が開存しており、有効な咳嗽が維持されていたため RTX が有効であったと考えられた。

【運営委員会だより】

- 第 655 回講話会（2019 年 6 月 8 日）プログラム編成について報告がありました。指定発言がついた演題が少ないので、指定発言をつけて頂くよう事務局よりお願いすることになりました。
- 第 655・656・657 回講話会の教育講演および感染症だよりについて、講師と座長が確認されました。
- 2019 年度の子どもの健康週間パンフレットについて、執筆担当とテーマが確認されました。
- 次期プログラム委員については東京医科大学小児科（9・10・12月）にご担当頂くことになりました。
- 東京都地方会で作成する「緊急時を念頭にしたメーリングリスト」について、これまで 710 名（全会員の約 33%）の登録があったことが報告されました。
- 第 654 回講話会（5 月）の出席者は、256 名、ベビーシッタールーム利用者は 6 名、前回講話会以降の新入会者は 33 名、退会者は 27 名でした。

【演題の申し込みについてのお願い】

- 動画が含まれる場合には、その旨を明示して下さい。
- 原則として指定発言をつけて下さい。（共同演者から指定発言は頂けません）
- 演題の締切は次のようになります。
- 運営委員会にて抄録の修正をさせて頂く事もございますので、原則としてご了承下さい。

講話会開催月	演題締切	講話会開催月	演題締切	講話会開催月	演題締切
1月	前年 11 月 30 日	2月	前年 12 月 25 日	3月	1月 31 日
5月	2月 28 日	6月	4月 22 日	7月	5月 31 日
9月	6月 30 日	10月	8月 31 日	12月	9月 30 日

申込演題が規定数を上回った場合、さらに 1 回先になることがありますのでご了承下さい。

その場合、事務局よりご連絡します。

【演者の先生方へのお願い】

- 一次抄録は 160 字以内に。また、二次抄録は日本小児科学会雑誌に掲載されますので規定の 200 字以内を厳守くださいようお願い致します。（原稿はワード入力で e-mail にて事務局へお送り下さい。）
- 出席した会員に発表の意味をより強く、明確に伝えるために、最後（または適切な時期）に Take Home Message（この発表から学ぶこと）を手短な一文で記したスライドを付け加えていただくようお願い致します。

【会員登録事項の変更届についてのお願い】

- 自宅、勤務先の住所（プログラム送付先）等の変更または、改姓があった場合は、速やかに東京都地方会事務局までご連絡下さい。
- 退会される場合も必ずご連絡下さい。そのお届けがない場合は次年度も継続として年会費の請求を致します。

東京都地方会事務局 e-mail : jpstkyo-office@umin.ac.jp / FAX : 03 (5388) 5193

【事務局よりご連絡】

- 今回の教育講演には日本小児科学会専門医新制度における専門医共通講習または小児科領域講習の単位が付与されています。
受付開始から教育講演開始時間まで引換券を配布しますので、教育講演終了後から講話会終了までの間に引換券と聴講証とを交換して下さい。
なお、引換券は当日限り有効です。
また教育講演開始後に入場、及び終了前に退出された方には聴講証はお渡しできません。
- 子どもの健康週間パンフレットは 2016 年版と 2017 年版も在庫がございます。ご希望の先生は事務局までご連絡下さい。なお在庫の関係でご希望部数をお送り出来ない場合がございますことをご了承下さい。

Presentationについて

発表は Computer Presentation (Windowsのみ可、Macは不可) のみで受け付けます。MacのPC持ち込みによる発表はご遠慮下さい。Powerpoint 2000以上で作成、Font 文字は Powerpoint 備え付けのみ。CD-RもしくはUSBメモリーにて、第1、2グループ発表者は午後1時30分までに、第3グループ以降の発表者は午後3時までにスライド受付まで持参して下さい。機器操作は、当方で行います。あらかじめウイルス checkをお願い致します。

動画について

動画の発表にはトラブルが多いため、下記の方針をご理解いただきますようお願い致します。

- ① 一般演題での動画の使用はできる限りお控えいただくようにお願い致します。
- ② 動画の使用が不可避と考えられる場合、ファイルのセーブ法などの注意事項がありますので、学会事務局に必ず事前にご連絡下さい。
- ③ ②の場合にも、動画の映写にトラブルがあったときに備え、静止画像のみで構成された代替パワーポイントファイルをご用意下さい。当日、動画の映写が不可能と判断された場合には、代替パワーポイントファイルを用いて、時間通りに学会を進行させていただきますことをご了承下さい。

〈ベビーシッタールーム開設のお知らせ〉

乳幼児を同伴される方のために、ベビーシッタールームを開設します。利用ご希望の方は、利用日の**10日前**までに問診票をダウンロードし、必要事項を記載の上、事務局へe-mailまたはFAXでお申し込み下さい。問診票は東京都地方会ホームページにございます。利用当日、お子様が好きな食べもの・飲料・おもちゃ・着替え・おむつなどに名前を付けてご持参下さい。キャンセルされる場合は、3日前までにご連絡をお願い致します。連絡のないキャンセルの場合は、次回以降の利用をご遠慮頂く場合がございます。なお費用は学会が負担致します。

日本小児科学会東京都地方会事務局 TEL 03-5388-7007/FAX 03-5388-5193
e-mail : jpstokyo-office@umin.ac.jp

オススメ書籍のご案内



最新感染症ガイド R-Book 2018-2021

編集：米国小児科学会
監修：岡部 信彦
判型：菊判
頁数：1208
価格：19,000円+税



最新小児 皮膚疾患ガイド

編集：米国小児科学会
監修：秀道広、小林 正夫
判型：菊判
頁数：754
価格：13,000円+税

ADHDと多動性障害 ～ADHDと多動性障害の 臨床像・診断評価・治療 のハンドブック～

翻訳・監修：岡 明
判型：四六判
頁数：186
価格：5,000円+税



T式ひらがな音読 支援の理論と実践

～ディスレクシアから
読みの苦手な子まで～
著者：小枝 達也
関 あゆみ
判型：B5判
頁数：96
価格：3,000円+税



日本小児医事出版社

〒160-8306 東京都新宿区西新宿 5-25-11 2F
TEL : 03-5388-5195/FAX : 03-5388-5193

ホームページ

